

山の旅、山の記憶

平成 29 年 7 月

沼尾 利郎



信州の夏

1 山の日

昨年「山の日」ができて、8月11日は祝日となりました。祝日が増えることに異論はないのですが、「なぜ山の日なの?」「海の日への対抗?」「8月11日と山の関係は?」などの疑問がわき、気になって調べてみました。

	海の日	山の日
日付	7月の第3月曜日	8月11日
いつから	1996年(平成8年)	2016年(平成28年)
趣旨	海の恩恵に感謝するとともに、海洋国家日本の繁栄を願う。	山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。
由来	1876年(明治9年)に明治天皇が東北北海道を巡幸され、青森から巡視船に乗り横浜まで到着した日(7月20日)が「海の記念日」と制定され、その後に祝日となった。	特別な出来事や明確な由来なし。

「山の日」制定にあたり、当初は6月案もあったそうですが企業などの反対で8月に決

まったようです。要するに8月は夏山シーズンでもあり、お盆の前で企業への影響も少ないことから選ばれたのでしょう。これで祝日の数は16日となり、祝日のない月は6月だけとなりました。今後の新しい祝日誕生に期待したいと思います。



これぞ上高地（河童橋と梓川）



大正池と穂高連峰

2 上高地は神降地

「山の日」といえば、6月上旬の梅雨入り前に上高地へ小旅行をしました。上高地は中部山岳国立公園の一部として国の文化財（特別名勝・特別天然記念物）に指定されており、穂高連峰の美しい山々と梓川の清流で有名な国内屈指の山岳リゾートです。標高1500メートルの上高地は江戸期までは人跡未踏の秘境であり、「神の降り立つ地（神降地）」とも称された聖域（信仰の地）でしたが、現在では年間130万人が訪れる日本有数の山岳景勝地となりました。「いつかは上高地へ…」と思いながらもこれまで訪れる機会がなかったのですが、今回の小旅行ではネイチャーガイドとの散策でこの地の自然を詳しく解説してもらい、新緑の中の清楚なニリンソウや梓川沿いのケショウヤナギに囲まれて、心洗われるような大自然を満喫することができました。



ニリンソウ

唯一の心残りは梓川上流の明神池まで行く時間がなかったことですが、日頃の運動不足を自覚している私にとっては大正池から田代湿原、河童橋までの川沿いをゆっくりトレッキングできただけでも十分満足でした。

3 グランドティートン国立公園

「山と溪流」といえば、かつて米国留学中に夏季休暇で旅行したグランドティートン国立公園が思い出されます。この国立公園はワイオミング州西部でイエローストーン国立公園の南に位置しており、高さ 4197 メートルの主峰グランドティートンを中心に 12 の峰で形成されるティートン連峰とその麓に広がる大小の湖や川が素晴らしい景観を作り出し、「アメリカでもっとも美しい国立公園」とも言われています。この山を見て「どこかで見たことあるような…」と思う人は、立派な中高年の証拠です。それは西部劇不朽の名作「シェーン」(1953 年) のラストシーンで、少年ジョーイが「シェーン、カムバック！」と叫ぶあまりに有名な場面の背景だからです。



グランドティートン国立公園

大草原の遙か彼方にそびえ立つこの山脈はアメリカン・ロッキーの象徴でもあり、一度見れば誰でも忘れないほどの魅力を持つすばらしい景色です。私は 1991 年に家族と旅行で訪れ、平野をゆるやかに蛇行する川（スネイク・リバー）をボートで下りながら大自然や野生動物

たちを楽しむことが出来ました。アメリカには原色系の岩肌で壮大なスケールの国立公園が数多くありますが（グランドキャニオン、ブライスカニオン、アーチーズなど）、グランドティートンは山・森・湖・川などが見事に調和された正真正銘の絶景の宝庫でした。



グランドティートン国立公園

4 山男と山ガール

これから夏休みの季節になりますが、若い頃は海へ行きたかったのに最近では山の方が落ち着くというかホッとします。年を取ると誰でもそうなるのでしょうか？ 海が好きな人と山が好きな人では性格も異なるようで、海志向の人が明るく社会的・開放的であるのに対して、山志向の人は（ちょっと）暗くて人付き合いが苦手な不器用タイプが多いような気がします（個人の感想です）。一言で言えば、「都会育ちの派手で陽気でスマートな人」と「地方出身の地味で素朴なおとなしい人」という感じでしょうか。私は海なし県（栃木）に生まれた地方出身者なので後者そのものなのですが、都会生まれの若い人にも山ガールが増えている理由がよくわかりません。彼女たちにとっては、単に流行の1つというだけなのかもしれませんね。それはともかく、雄大で神々しい山を目の前にすると日々の悩みがいかに小さくてちっぽけなものかよくわかります。今回の上高地では滝に打たれる修行の後のような気分で心のモヤモヤが消え、心身がリフレッシュされた「心の旅」となりました。



信州の山々